

# かくだ市議会だより



## 第397回定例会

- 質疑・討論 ..... 2
- 議案審議結果 ..... 3
- 一般質問 ..... 4～9

## 角田市議会から

- 平成30年度政務活動費収支報告 ... 9
- 議会日誌 ..... 9
- 教育厚生常任委員会行政視察報告 ... 10

## 【今号の表紙】『金津七夕』

豊作、虫除け、子どもの成長を願って、田んぼの中を練り歩く竿灯行列を撮影しました。

《撮影》角田市坂津田 吉田 広さん

撮影日：2018年8月4日 場所：尾山地内

### 表紙写真・イラスト等募集しています

詳細は角田市ウェブサイト内「かくだ市議会だより表紙写真・イラスト等募集」をご覧ください。



第397回  
6月定例会

第397回定例会は6月10日から6月27日までの18日間の会期で開かれました。

一般質問では10人の議員が、市政全般にわたり論戦を繰り広げました。

市長から提案のあった固定資産評価員の選任、補正予算、条例の制定・改正・廃止などの議案15件については、審議の結果、原案のとおり同意・承認・可決しました。

また、議員提出議案が4件提出され、審議の結果、原案のとおり可決しました。

議案  
第44号

公園遊具施設補修設置工事

当初予定していた台山公園の遊具修繕に加え、白岩公園の公園遊具施設補修設置工事費1,200万円を追加するもの。



▲更新する白岩公園複合遊具

**問** 公園遊具施設補修設置工事について詳細説明を求めます。

**答** 当初、台山公園のタワーアンロープ付き木製複合遊具

一般会計補正予算(第2号)

具のみの更新を予定していたが、国の交付金内示額が追加されたことから、次年度で予定していた白岩公園の複合遊具の更新を前倒しで実施する。

住宅管理費

職員の人件費による職員人件費364万円を追加し、既に一般財源振替となっている住宅使用料を充当するもの。

**問** 住宅使用料は、公債費や住宅管理費に充当すべきではないか。

**答** 住宅使用料は、第1に住宅の維持管理等、第2に公債費に充当し、充当しきれない金額を一般財源振替としており、適切な事務処理である。

反対討論…日下 七郎

当初予算時に計上していた住宅使用料を住宅管理費と公債費に充て、その残額を一般財源としていたが、それを今回の補正予算で、特定財源に戻しているが、財政規律とすれば一般財源として管理し、一般財源を公債費に財源充当し、既決予算の充当財源を住宅管理費に充てる予算とすべきである。

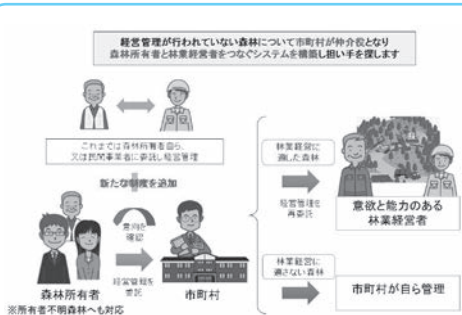
賛成討論…黒須 貫

年度当初の人件異動による予算の組み換え、ふるさと納税増による返礼品の増、消費税引き上げの影響緩和のためのプレミアム付商品券事業、地球温暖化及び災害防止を目的とした森林環境税に係る事業の新設による予算の追加等、いずれも適正な行政運営や市民福祉の向上に必要な経費であり、賛成する。

議案  
第38号

角田市森林環境整備基金条例の制定について

国において森林環境譲与税・森林経営管理制度が創設され、自然的条件により林業経営に適さない私有林等については、市町村が森林整備等の事業を行うこととなった。その森林環境の整備・促進に要する経費に充てるため、角田市森林環境整備基金を設置するもの。施行期日は令和元年6月27日。



▲林野庁ウェブサイトより

産業建設常任委員会での質疑

**問** 森林所有者が不明・未相続の場合はどうなるのか。

**答** 登記簿や戸籍等で所有者の探索を行い、それでも不明な場合は公告を行う。所有者不明等の探索作業は、大変な労力が必要となるので、地域の方と相談しながら進めていきたい。

一般・特別会計補正予算一覧

(単位:千円)

会計区分	補正額(6月)	補正後の額
一般会計	532,417	12,908,957
特別会計		
介護保険	-5,890	3,151,380
公共下水道事業	3,844	1,289,087

一般会計の主な補正予算項目

歳入(収入) (単位:千円)

項目	補正額
プレミアム付商品券事業費補助金(国庫支出金)	58,794
防災・安全社会資本整備交付金(国庫支出金)	80,258
ふるさと納税寄附金	200,000

歳出(支出) (単位:千円)

項目	補正額
ふるさと納税事業(返礼報償費等)	100,000
プレミアム付商品券事業	208,800
住社橋橋りょう整備事業	117,875

# 議案審議結果

## 議案審議結果一覧

### ●賛成と反対がわかれたもの

○…賛成 ×…反対 -…退席又は欠席

会議名	提出者	議案番号	件名	審議結果 (賛成:反対)	市民クラブ				志政クラブ			日本共産党 角田市議団		創生会		無会派			
					高橋力雄	湯村勇	星守夫	細川健也	堀田孝一	八島利美	武藤広一	黒須貫	日下七郎	八島定雄	武田暁	小湊毅	馬場道晴	渡邊誠	相澤邦戸
第397回定例会	市長	議案第44号	令和元年度角田市一般会計補正予算(第2号)	可決(13:2)	○	○	○	—	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
		議案第46号	令和元年度角田市公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決(13:2)	○	○	○	—	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
	議員	議案第4号	角田市議会基本条例の一部改正について	可決(14:1)	○	○	○	—	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		議案第5号	角田市議会委員会条例の一部改正について	可決(14:1)	○	○	○	—	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		議案第6号	角田市議会会議規則の一部改正について	可決(14:1)	○	○	○	—	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
		議案第7号	米軍普天間飛行場を辺野古新基地への移設・統合を促進する意見書の提出について	可決(11:4)	○	○	○	—	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○	×

議長(柄目孝治)は採決に加わらない。

### ●全員が賛成したもの

会議名	提案	議案番号	件名
第397回定例会	市長	議案第33号	専決処分の報告並びにその承認を求めることについて(角田市市税条例の一部改正について)
		議案第34号	専決処分の報告並びにその承認を求めることについて(角田市都市計画税条例の一部改正について)
		議案第35号	専決処分の報告並びにその承認を求めることについて(角田市国民健康保険税条例の一部改正について)
		議案第36号	固定資産評価員の選任について
		議案第37号	角田市震災復興基金条例の廃止について
		議案第38号	角田市森林環境整備基金条例の制定について
		議案第39号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
		議案第40号	角田市市税条例等の一部改正について
		議案第41号	災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について
		議案第42号	角田市心身障害者医療費の助成に関する条例の一部改正について
		議案第43号	介護保険条例の一部改正について
		議案第45号	令和元年度角田市介護保険特別会計補正予算(第1号)
		議案第47号	令和元年度角田市水道事業会計補正予算(第1号)

### 10月から

## 常任委員会編成が変わります

次の市議会議員一般選挙より、議員定数が2人減の16人となります。

この削減された議員定数で、より効率的・効果的に議論が進む方策について、議会運営委員会において協議を重ねてきました。

そしてこの度、常任委員会数を3つから2つに再編する『角田市議会委員会条例』の一部改正と、議会改革の議論の場を議会運営委員会で行う、『角田市議会基本条例』・『角田市議会会議規則』の一部改正を上程し、賛成多数で可決しました。

常任委員会名	定数	所管
総務産業常任委員会	8人	総務部、農林振興課、商工観光課、会計課、議会、選挙管理委員会、監査委員、農業委員会等
教育厚生建設常任委員会	8人	市民福祉部、都市整備課、下水道課、水道事業所、教育委員会

### 皆さんからの陳情

●**辺野古新基地建設の即時中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について、国民的議論により、民主主義及び憲法に基づき公正に解決すべきとする意見書の提出を求める陳情**  
 沖縄県那覇市銘苅一丁目3番36号  
 「新しい提案」実行委員会  
 安里 長 従 ほか6人

●**東京都新宿区四谷三丁目8番地 全国青年司法書士協議会**

●**国連各委員会の「沖縄県民を先住民族と認めて保護すべき」との勧告の撤回を求める意見書の提出を求める陳情**  
 (同一の陳情内容で別陳情者)  
 会長 半田久之

●**米軍普天間飛行場を辺野古新基地への移設・統合を促進する意見書の提出を求める陳情**  
 理事 長 仲村 覚  
 埼玉県川越市仙波町二丁目17-34  
 一般社団法人 日本沖縄政策研究フォーラム

●**中小業者の自家労賃を必要経費として認めることを求める意見書の提出を求める陳情**  
 会長 平安座 唯雄  
 沖縄県宜野湾市真栄原二丁目15番10号  
 宜野湾市民の安全な生活を守る会

●**固定資産評価員の選任**  
 部長 佐山 奈穂子  
 仙南民主商工会婦人部  
 柴田郡柴田町西船迫一丁目8-6

○**《新任》牛澤 順(藤尾2区行政区)**  
 ○任期 令和元年6月10日

一般質問とは、角田市のさまざまな課題等に対して、市長や教育長などに対し、事務の執行や将来の考えなどを質問することができます。  
質問した議員ごとに要約してお知らせします。

質問議員 (質問順)	質問項目	頁
武藤 広一	有害鳥獣（イノシシ）対策について	4
堀田 孝一	運転免許証の自主返納支援について	5
小湊 毅	角田市の災害対策について	5
黒須 貫	角田型コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入について	6
八島 定雄	「放射性汚染廃棄物」焼却等をめぐる問題について 通学路等の安全確保について その他の質問 ・ 新生児難聴支援策について	6
日下 七郎	角田バイオマス発電所について その他の質問 ・ 角田市国民健康保険事業特別会計予算に関する事 について ・ 内町ため池及び新桜井川支流内町堀川に関する事 について	7
馬場道晴	認知症に関する情報を手軽に得られるサイトの開設に ついて 「道の駅かくだ」について	7
武田 暁	後世への文化継承について	8
相澤邦戸	第1期角田市障害児福祉計画について	8
八島利美	「道の駅かくだ」を拠点とした地域振興戦略の推進につ いて	9



## 有害鳥獣（イノシシ） 対策について

武藤 広一

議員▼イノシシ被害防止対策について、駆除隊による捕獲の取組としては箱わなや、くくりわなの設置を行い、防護に對しての対策としては、電気柵等の設置への助成を行っている。

しかし、イノシシの個体数は減っていないのが現状で、ここ数年は毎年1,000頭以上の捕獲数となっている。やはり、防護よりも捕獲を強化することが最優先と考える。

捕獲されたイノシシは、現在、仙南クリーンセンターで焼却しているが、1頭当たり50kg以上のイノシシは切断を行い、1ブロック50kg未満として搬入、50kg未満のイノシシについては、衛生上の都合から、血抜きを行いそのまま搬入している。

そこで、仙南クリーンセンターで1頭50kg以上のイノシシを丸ごと搬入できないのか。

市長▼処理を行う施設の構造上、安全に処理できる大きさが、1ブロック50kg未満であり、これ以上だと詰まりの原因となり、設備が破損する恐れがあることから、仙南地域広域行政事務組合では、解体してからの搬入のご協力をお願いしている。

議員▼50kg以上のイノシシを、問題なく破砕できる設備を検討できないのか。

市長▼設備の改修は現段階では考えていない。過去に、仙南クリーンセンター内に、破砕や解体をする施設の設置について検討したが、様々な問題により、実現に至らなかった経緯がある。

議員▼蔵王町や白石市では、有害鳥獣解体場を設置したところ、駆除隊員の負担が軽減したと聞いている。本市でも、国の補助事業等を活用し解体場を設置してはどうか。

市長▼ここがポイントだと思う。駆除隊の各分隊長に聞き取り調査の結果、焼却が50%、埋却が40%、自家消費（ジビエ）が10%と伺った。また、昨年度、50kg以上のイノシシの捕獲頭数が105頭と、隊員1人当りに換算すると1.6頭という状況にある。駆除隊長からは、「解体処理施設よりも仙南クリーンセンターで、1頭丸ごと焼却してもらえたほうが助かる」という話である。

よって、引き続き仙南地域広域行政事務組合に対して、仙南クリーンセンターに重量制限をなくした搬入について、協議するとともに、仙南クリーンセンターが市内にあるので、最大限にこの施設を活用することとし、現段階では解体処理施設は必要ないと考える。



## 運転免許証の 自主返納支援について

堀田 孝一

**議員**▼本市において、平成26年4月1日より、自主返納した方へ支援事業を行っているが、具体的な取り組み及び自主返納件数(過去5年)について問う。

**市長**▼市内に住所を有する65歳以上の方が自主返納した場合、デマンドタクシー利用券又は阿武隈急行乗車券(回数券)を、1万円以内の範囲で1人1回交付している。

**議員**▼自主返納件数は、平成26年が32件、平成27年が47件、平成28年が52件、平成29年が74件、平成30年が77件である。自主返納者に対する支援事業の交付申請割合は、平成30年度で約53%である。

**議員**▼高齢者の運転免許証自主返納支援の今後の取り組みについて、市長に問う。

**市長**▼デマンドタクシー、阿武隈急行以外の部分でも拡大できないか、検討する必要があるか、検討している。なお、事業を拡大するということになれば、趣旨を説明しながら、危険運転などで事故を起こさないように、自主的に返納していただくことを呼びかけていく。

**議員**▼運転経歴証明書の交付手数料の助成(交通安全協会)が平成31年4月から廃止となったが、公的助成の考えはないか、市長に問う。

**市長**▼交通安全協会の加入者が運転経歴証明書の申請をした場合に、交付手数料の1,100円を協会が全額助成してきたものである。角田地区以外の白石、柴田、名取地区及び仙台南、石巻地区

も廃止となつている。協会の自主的な事業で、協会の判断により廃止を決定したものであり、角田市として助成していく考えはない。

**議員**▼平成30年度末で、角田市の免許証返納者が77人に対して運転経歴証明書申請者が60人で、約78%の方が申請をしている。長年免許証をもってという事に対するステータスもあり、自主返納者の多くの方が運転経歴証明書を求めており、今後、検討を願う。

**市長**▼民間の支援制度もあり、運転経歴証明書を提出した場合に、宮城県タクシー協会加盟各社のタクシー料金は1割軽減また、東北アークセス株式会社の角田・仙台間の片道料金は5割軽減と、大変メリットのある支援の一つである。運転経歴証明書がなくなると、民間の支援がなくなることから、何らかの対応が必要と考える。

**議員**▼免許証の自主返納制度は、住んでいる地域や環境によっては簡単に車の運転を止められない方が多く、高齢者が安全に車を運転するためには安全運転支援装置等への補助も必要と考えるが、市長の見解を問う。

**市長**▼今後、国では新たな高齢者の運転免許制度について検討されていくため、動向を注視する。



## 角田市の災害対策について

小湊 毅

**議員**▼近年、大雨が各地で頻繁に発生しており、甚大な被害が生じている。角田市においては、大雨による災害が非常に心配される。本年3月29日に内閣府から避難勧告等に関するガイドラインが改定された。警戒レベルを5段階で表し、警戒レベル1は注意、警戒レベル2は避難の準備、警戒レベル3は避難者等は避難開始、警戒レベル4は全員避難、警戒レベル5は災害発生中、というものであり、非常にわかり易くなった。市民の皆さんに十分に御理解頂くことが何よりも大切なことだと思いが、市の対応は？

**市長**▼市のホームページには既に掲載しており、広報かくた7月号でお知らせすることになっている。改定後の防災講話や出前講座でもお知らせしており、今後も引き続き周知していく。

**議員**▼避難経路等は、各地域で検討して頂くのが現実に即した最もいいもの

になると考えている。各地域での検討状況、また、検討されていない防災組織に対しての市の対応は？

**市長**▼防災マップ等を元に避難経路を検討、作成している防災組織は18団体ある。角田、小田、北郷地区は既に検討がなされていると捉えている。検討が進んでいない防災組織には、検討を促し、地域の防災士あるいは防災指導員と共に作成に協力していく。

**議員**▼過去の大雨の際、主要道路の冠水があった。救急車両が通る経路が、冠水して通れなくなることを最も懸念している。

**市長**▼幹線道路の冠水による通行止めの解消は、角田橋半田線、瓢石妙立寺線は着手済み。国道113号の横倉地内のかさ上げ工事は、宮城県の今年度の予算に計上されている。今後、冠水時の孤立家屋発生路線を優先的に対応していく。君萱小田線の毛萱地区は、道路の

かさ上げの必要性は当然だが、江尻排水機場での排水も含めて、改善の検討が必要な箇所と考えている。

**議員**▼昨年10月の台風第23号の際に、民地の木が強風で倒れ、水路沿いフェンスを壊し地権者の方が、全額負担でフェンスを修理するという事例が起きている。本年度より森林環境税が導入され、民地における森林の整備を市が行えるようになった。災害防止の為に森林整備も可能である。今後の高齢化を考えれば、市の施設に被害を生じさせる可能性が高い箇所を市で指定し、地権者の方の同意を得て、木を伐採するということをすべきではないか？

**市長**▼森林環境税導入による森林整備、森林経営管理制度の中で対応できないか、ということだが、一つの方法論だと思おうので、この制度を進める上で、一つの参考とさせて頂く。



## 角田型コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入について

黒須 貫

議員▼教育厚生常任委員会で視察した鹿児島県薩摩川内市は、小中一貫教育を進めて教育目標の達成に効果を得ていたが、その中にコミュニティ・スクール(以下「CS」という。)が取り入れられていた。CSとは、「学校運営協議会」(＝学校運営や学校課題に対して広く保護者や地域住民が参画できる仕組み)を設置する学校のことです。地域の協力を得ることができ、有効だと伺った。既にCSの設置の努力義務化やその役割の充実などが法制化(平成29年4月施行)されている。当市においても、学校と社会教育が両輪となる教育のまちづくりの柱の一つとして、CSを導入・推進することは有効と考えるがどうか。

議員▼CS導入の成果としては、教育あるいは学校に対する保護者、地域住民の関心・理解に支えられ、地域と連携した取り組みの組織的な展開が図られることにある。

一方、類似する制度との違いが不明瞭、既に地域・保護者の意見が反映されている場合の必要性、学校の自立性が損なわれるなどの懸念がある。今後、県内外の先進事例の情報を収集し、研究・検討していく。

議員▼CSは、地域や学区の特色を反映できる柔軟な制度だ。また、薩摩川内市ではCSを支える多くの学校支援ボランティア、地域貢献をする子どもたちの活動があった。当市の各学校でも様々な活動が行われており、それらに関連付けづらくなっているように思うが、どうか。

議員▼CSの中核となる学校運営協議会は、学校、保護者、地域社会に対する責任が大きくなる。また、これと両輪をなす地域組織として「地域学校協働本部」があり、諸団体・グループのコーディネート役を果たすが、ここに集う諸団体・

グループの主体性が求められる、人口減少の中で、この主体性の保持・促進が最大の課題だ。その解決あるいはその過程でCSの実現が可能となる。

議員▼今後の地域における社会教育のあり方や、社会教育と学校教育の連携協働としてのCSを考へて行くと、小中一貫教育の有効性が見えて来るが、教育長の考えを問う。

議員▼小中一貫教育については、角田市学校適正規模検討委員会の中で検討している。狙いは小中学校の節目を無くすことで、有効性は小中学校の指導の枠を超え自由に行うこと、子どもが発達の特性に応じた一貫性のある指導が可能となることだ。実現には、課題を慎重に検討しつつ、準備されなければならない。検討委員会では、一貫教育の考えが共有されつつあり、広く市民への理解が進めば具体化への見通しが見えてくる。

議員▼市内の公園や教育保育施設の校庭の下などに埋められた汚染土が相当量あるが、今後の進め方について問う。

市長▼現在、市内各施設において、64カ所に4,939㎡の除去土壌を現場保管している。環境省において、除去土壌を処分するための検討を行っており、その結果をもと

に処分方法のガイドライン等が作成されることになっている。そのガイドライン等が示された時点で、処分方法について検討していきたい。

議員▼角田市内も「汚染状況重点調査地域」に指定されているが、指定解除は、どのような条件が整うと解除されると考えているのか。

市長▼この除去土壌がなくなる限りは、終わらない。ガイドラインができて、処分できたならば解除することで良いのではないかと考えている。

## 「放射性汚染廃棄物」焼却等をめぐる問題について

八島 定雄



議員▼角田市では、小学校周辺のブロック塀の要改修が90カ所、要解体が17カ所と宮城県調査での報道があった。市はこの調査にどのように協力したのか問う。また、その中で公共施設のブロック塀が含まれているのかも併せて問う。

市長▼市内の小中学校周辺のブロック塀等実態調査は、小学校周辺のおおむね500m範囲内の通学路を対象として、昨年10月から今年1月にかけて、県が主体となり325カ所について現地調査を

実施したが、その際、職員も同行している。また、この調査区域の通学路を示した地図及び、この通学路に面したブロック塀等が設置されている敷地を落とし込んだ位置図の作成作業にも協力している。なお、調査対象通学路に面して、公共施設のブロック塀等が設置されている箇所はなかった。

議員▼これらの「調査結果」を受けて、今後、市として、どのような安全対策を確保していく考えなのか問う。

市長▼調査対象となったブロック塀等の所有者に、県より危険度の通知をしており、緊急に改善が必要箇所については、通行人に注意喚起を促すために市道側に、カラーコーンを設置するなど暫定的な対応をしている。今年2月に、国の社会資本整備総合交付金によるブロック塀等の安全確保に関する事業の交付対象項目が創設された。今後、この交付金を活用して、危険ブロック等の除却を実施する所有者に対し、除却費用の一部を補助することにより早期改善を促し、通行者の安全確保に努めていきたい。

議員▼この除去土壌がなくなる限りは、終わらない。ガイドラインができて、処分できたならば解除することで良いのではないかと考えている。



## 角田バイオマス発電所について

日下七郎

議員▼角田バイオマス発電所の、年間7.2万トンの燃料の安定的調達の難易度について、2017年3月、再生可能エネルギー固定買取制度（FIT）におけるバイオマス発電の認定は、前年度の3倍、1,241万kWへと急増し、2019年9月には、1,373万kW、FIT以前の認定量を加えると、1,604

万kWに達する。経済産業省は、この認定量のうち約4割は、バイオ油を燃料とするもので、全てが稼働すれば、年間900万トンのバイオ油が必要になり、2016年の日本のバイオ油の輸入量65万トンと予想している。また、バイオ油発電急増の対策として、2017年9月から、バイオ油については、トレーサビリティとの合法性を担保するために、持続可能なバイオ油のための円卓会議（RSPPO）認定のうち、アイデンティティブリザーブド（IP）、セグリゲーション（SG）との制度変更に伴い、2018年4月に事業計画策定ガイドライン（バイオマス発電）を改正し、2018年3月末以前に認定・稼働にも適用するとしている。

IP、SGに該当するバイオ油は、バイオ生産の18%程度とされている。角田バイオマス発電所は、年間7.2万トンのバイオ油を安定的に調達することの難易度は相当高いと思うが、H.I.S. SUPER電力株式会社社長▼改めてH.I.S. SUPER電力株式会社社長▼改めてH.I.S. SUPER電力株式会社社長▼改めてH.I.S. SUPER電力株式会社社長に確認したところ、RSPPO、認証バイオ油の調達先等の調達方法については、確定しておらず、現在調整中であり、また本年3月23日にRSPPOの正会員になり、今後、RSPPO認定に向け準備を進めている。なお、認証モデルは、セグリゲーション認証モデルを採用する計画と伺っている。

議員▼2017年のバイオ油発電の大量認定による燃料バイオ油の調達困難等やバイオ油農園開発が、東南アジア（マレーシア、インドネシア）の貴重な熱帯雨林減少主要因となり、地球温暖化を進行させるバイオ油発電を国民負担（再エネ発電負担）で稼働させる必要はないと考える。

そこで、再度の角田バイオマス発電所の撤退の申し入れを市長に求める。市長▼前回も回答したが、撤退を申し入れる考えはない。角田市で行う発電事業が、直接バイオ油原産国の自然環境等へ悪影響を及ぼすことは無いと認識している。原子力発電に代わる再生可能エネルギーとしてのバイオマス発電は、国の政策として進められていることから、事業の撤退を申し入れる考えはない。

このサイトを見た市内に住む70代の方から、自分も認知症になることが心配なので、ぜひ認知症の予防法や相談窓口案内等の情報を、手軽に得られるサイトを開設してほしいとの要望があった。角田市においても、このようなサイトを開設すべきと考えるが、市長の考えを問う。



## 認知症に関する情報を手軽に得られるサイトの開設について

馬場道晴

「認知症安心ガイドブック」を目に気づいて早目に対応」というものを市のホームページに掲載したり、認知症情報誌を半年に1回全戸に配布し、「老化による物忘れ」と「認知症による物忘れ」の違いや、認知症検査ができる医療機関を紹介するなど、認知症に関する知識の普及啓発に努めている。さらに、今年5月から介護保険者証及び後期高齢者医療被保険者証の交付時に、認知症の自己診断のためのチェックシートを配付し、検査できる医療機関や相談先として地域包括支援センターを案内している。新たなサイトの開設は、相当費用がかかり、財政面を考慮すると難しいと考える。市のホームページで、予防や相談窓口などの認知症情報の充実を図り、市民の方が手軽に認

知症に関する情報を検索できるようにしていく。

議員▼お客様からの御意見を反映させるため、「道の駅かくだ」において御意見箱を設置すべきと考えるが、市長の考えを問う。

市長▼道の駅かくだが開業してから、数多くのお客様からのお褒めの言葉、苦情、叱咤激励のほか、メール等でもご意見を頂いており、すぐに対応できる事項については、すぐに対応している。

御意見箱の設置は、これも一つ目安として大事なことだと思うが、人的にぎりぎりの社員数であり、すぐに対応できるような状況にないことから、少し落ち着いてきたら、現場と話して検討したい。



## 後世への文化継承について

武田 暁

**議員**▼角田市教育振興基本計画（以下、基本計画）の中では、「民間所有の指定文化財を保存するための助成制度の更なる充実を図る」とあるが、具体的にどのようない助成制度の充実を図るのかを問う。

**教育長**▼国・県・市の指定文化財の所有者等に対して、500万円を上限に財政支援を行っている。国の助成金を活用し、金津七夕、角田祭ばやし、未指定の神楽等の用具整備を進めている。

**議員**▼同基本計画には「金津七夕や角田祭ばやし等の無形民俗文化財を継承する団体と連携し、継承者の確保・育成を図る」とあるが、どのような施策を行っているのかを問う。

**教育長**▼民俗芸能大会を開催し、保存会同士の交流が図られる機会を設けてきた。広く一般に公開することで、祭りや郷土芸能に少しでも興味・関心を持ってもらうことが、新たな継承者の確保・育

成に繋がると思っている。

**議員**▼基本計画にある「地域に伝わる歴史、文化遺産を大切に、保存・活用しながら次世代に引き継ぐ」の文言は、「私は角田人です」と言えるような、アイデンティティーの構築に非常に有効だと思うが、どのように考えているのかを問う。

**教育長**▼郷土に対する愛情や誇りがなければ、世の中を生きていけないのではないかと考える。郷土愛を育てていかなければならない。

**議員**▼人口減少や時代の変遷に伴い、市内各地の郷土芸能のルーツを辿ろうとした時、資料等は少なく、伝承する方々の記憶に頼る部分が多いことが実情である。時と共に埋没してしまいうような郷土芸能の発掘・調査・保存について、どのような考えを持つのかを問う。

**教育長**▼郷土芸能の発掘調査、保存の必要性は常々感じている。今の状態での調査を行い、記録として残していくという

作業にぜひ取り組んでいきたい。

**議員**▼一度は衰退したものの、復活を遂げようとするものもある。藤田の北根地区の方々により、田植えの時期に踊られていたという田植え踊りがそれである。貴重な伝統文化として資料等の収集・整理・映像の保存等も行い、後世に伝えようとしている。このように、市内に残る各種郷土芸能等の資料を包括的に保存・活用すべきであり、資料等の劣化や損傷を最小限に抑えるよう、書面で残すのではなく、電磁的保存方法、所謂デジタルアーカイブの構築が有益であろうと思うが、所見を問う。

**教育長**▼現在メディアが発達していることを考慮すると、今後の記録にはデジタル化が欠かせないと考えている。今後、調査等を行う際も、最終的には、デジタルでの保存と公開を視野に入れていきたい。

**議員**▼この計画の冒頭に「全ての子どもが健康に成長するように支援し、障害児及びその家族に対しても乳幼児から学校卒業までの一貫した効果的な支援を身近な場所を提供する体制づくりを行う」と書かれてある。仙南地域自立支援協議会の「子ども支援部会」

## 第1期角田市障害児福祉計画について

相澤 邦戸



では、どんな審議がされているのか。

**市長**▼保護者向け相談マップの作成と、保護者用と関係機関用のハンドブック作成の検討、事業所の抱える問題の検討をしている。

**議員**▼児童発達支援センター、保育所等訪問支援サービス提供事業所を令和2年度末までに1カ所整備するとの目標だが、その進捗状況について問う。

**市長**▼センターと訪問サービスの2つを連携させ、仙南圏域で1カ所整備する方向で、受け入れが可能な施設・事業所を探している。

**議員**▼児童発達支援センターの事業の内容について問う。

**市長**▼児童発達支援、障害児相談支援、保育所等訪問支援、放課後デイサービスである。

**議員**▼視察先で学んだことと、センター内での医師との相談、専門職を交えての相談、関わり方を保護者とともに考える教室、外部に対する啓発事業、関係機関に情報の提供等々あったが、どのように考えるかを問う。

**市長**▼進める場合の参考

としたい。

**議員**▼市として新しくできるであろう発達支援センターに、どのような形で関わっていくのか。

**市長**▼関わり方については、今までと同じになると思う。また、新たにシステムができた場合は、それを活用する。

**議員**▼重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び重症心身障害児を支援する放課後デイサービス事業所も令和2年度末までに1カ所整備するとしているが、その進捗状況を問う。

**市長**▼医療行為が必要な児童もいるため、県の指導・助言をもらいながら、仙南圏域で設置できるように検討を進めている。

**議員**▼現在、角田市内では、2つの放課後デイサービス事業があるが、利用の保護者や事業所のスタッフのアンケートによると、見直すべき事柄が多数入っている。医療行為の必要性が伴う重症心身障害児に対応できる事業所、放課後デイサービス提供事業を目的の年度までに、是非整備していただきたいが考えを問う。

**市長**▼色々参考にしたい。整備していきたい。



# 10人の議員が市政を問う



## 「道の駅かくだ」を拠点とした地域振興戦略の推進について

八島利美

議員▼4月19日に開業し、5月31日までに、総買物客数約6万6千人、直売所とフードコートの売上約5千10万円(税抜)と順調だが、その反面、課題もあると思う。今後の運営戦略を問う。

市長▼御祝儀相場とGW効果で、順調な滑り出しだと思ふ。お金の掛かるハード面も含め、数々の課題もあるが、各種イベント等との連携を考

議員▼各関係部署と連携したグリーンツーリズム等体験型観光施策を問う。

市長▼秘伝豆やネギの収穫体験等、生産者の方々が熱心に取り組んでいる。関係部署と連携し、道の駅は司令塔の役割で、継続して販売できるように支援していきたい。

議員▼角田市商工会と連携したキャッシュレス化を問う。

市長▼POSレジを導入し、電子マネーの対応は可能だが、追加費用もかかるので、商工会の進捗状況をみながら検討していきたい。

議員▼「つめく梅まつり」や「ずんだまつり」の道の駅開催による物産販売促進策を問う。

市長▼物産販売に専念するということ意見は、ごもつともである。まつりの前後の期間を含め、長期間販売できるように、売れる農産物等の生産拡大にも取り組むたい。

議員▼地場産品ブランド化によるふるさと納税返礼品活用策を問う。

市長▼道の駅のブランド品だけでなく、宇宙米等市民の方々の角田ブランドを、返礼品として提供していきたい。

議員▼JAXAや宇宙米プロジェクト等の宇宙関連事業推進策を問う。

市長▼宇宙を拓くまち・かくだーの特徴として、宇宙をテーマにした色んな仕掛けをしていきたい。

議員▼交通公園等活用した利用者増の戦略を問う。

市長▼交通公園の利用者が前年の2千人から4千人へ倍増している。今後も遊具等を整備し、利用者増を図っていきたい。

議員▼スポーツ交流館入浴施設のクワハウス(温泉利用型健康増進施設)化を問う。

市長▼市内の医療関係者からも温泉療法を勧められていたが、常時入浴は維持管理費がかかり難しい。実現できるように頑張りたいが、今後の課題とさせて欲しい。

議員▼道の駅かくだのお客様を市内観光地や商店街へ誘導する施策を問う。

市長▼商工会で道の駅連携スタンプラリーを実施し、約2千2百件の応募があった。同時に、角田まち歩きマップやブルメマップ等を配布し、回遊対策を行った。今後も鋭意進めていく。

### 平成30年度政務活動費会派別支出状況

(単位：円)

会派名	市民クラブ (4人)	志政クラブ (4人)	日本共産党 角田市議団 (2人)	創生会 (2人)	無会派 (5人)	計
交付額	240,000	240,000	120,000	120,000	300,000	1,020,000
支出額	79,402	203,463	119,680	42,832	62,570	507,947
返還額	160,598	36,537	320	77,168	237,430	512,053

※詳細は角田市ウェブサイト

<http://www.city.kakuda.lg.jp/gikai/page00300.shtml>  
をご覧ください。



平成30年度政務活動費収支報告

政務活動費は、議員の調査研究などの活動に必要な経費の一部を議会における会派(会派に所属していない議員については議員へ)に対して交付し、使途基準に基づき支出します。

市議会全体で102万円交付し、執行率は約49.80%で、未執行分の約51万円が返還されています。

### 平成30年度政務活動費収支報告

### 全国市議会議長会表彰

〈特別表彰〉議員1535年以上 柄目孝治議員  
〈一般表彰〉議員15年以上 渡邊 誠議員

### 議会日誌

#### 5月

1日 かくだ市議会だより2022号発行  
11日 総務財政常任委員会  
17日 会派代表者会議  
21日 会派代表者会議  
27日 教育厚生常任委員会行政視察(23日)  
27日 議会運営委員会  
議会だより編集会議

#### 6月

3日 第397回定例会招集告示  
5日 議員協議会  
10日 議会運営委員会  
12日 会派代表者会議  
19日 議会運営委員会  
24日 本会議(第2日)  
25日 会派代表者会議  
26日 総務財政・産業建設常任委員会  
27日 議会運営委員会  
27日 本会議(第3日)  
27日 議員協議会  
27日 会派代表者会議  
27日 本会議(第4日)  
27日 議会運営委員会  
27日 本会議(第5日)  
27日 議会運営委員会  
議会だより編集会議

#### 7月

9日 会派代表者会議  
18日 会派代表者会議  
19日 全員協議会・会派代表者会議  
19日 議会運営委員会  
議会だより編集会議

# 教育厚生常任委員会行政視察報告



教育厚生常任委員会では、5月21日から23日にかけて鹿児島県内で行政視察を行いました。本年度は、①発達支援の取組みについて（霧島市）、②小中一貫教育制度の取組みについて（薩摩川内市）、③環境学習の取組みについて（鹿児島市）の3つのテーマを掲げて行いました。

①に関しては、発達に不安のあるお子さんの支援を行う拠点として、霧島市で設置している「こども発達サポートセンター」について、人員の配置や子ども・保護者に対する支援の内容、関係機関との連携の方策などについて調査しました。

②に関しては、少子化により、2度にわたり小中学校の再編を行ってきた薩摩川内市において、段階的に進めてきた

小中一貫教育制度の内容と、施設一体型の小中一貫教育をめざし本年4月に開校した「東郷学園義務教育学校」を現地調査しました。

義務教育学校とは、中学校に進学した際に不登校が増える「中1ギャップ」や、子どもの発達の早期化で、現状の「6・3制」の区切りは対応が難しくなっているといった課題の解消、小学校高学年から教科担任制による専門的な指導を行うことなどを目的に、平成28年4月に施行された改正学校教育法で制度化されたもので、9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校です。

③に関しては、市民・事業者が環境への関心や理解を深め、日常生活や事業活動において自発的に環境保全活動を実施するとともに、その活動の輪を広げていくことを目的に、公益財団法人かごしま環境未来財団が、鹿児島市より指定管理を受け運営している「かごしま環境未来館」を現地調査しました。

当常任委員会では、今回の行政視察で調査した、きめ細やかな子どもの発達支援の取組みや、新たな小中一貫教育制度、参加体験型の環境学習の取組みについて、今後、本市で取り入れられる点などについて議論を深め、市に政策提言していきたいと思っております。



## 編集後記

道の駅かくだがオープンして以来、好調のようです。角田の方が4割、市外の方が6割と聞いています。今後もミニイベント等を行い、交流人口拡大に寄与していただきたいと思っております。

今、議会では、定数16人となった後の議会運営について、常任委員会を2つとすること、議会報告会の開催方法、予算・決算特別委員会の審議方法等について、議論しています。

議会だよりのモニター制度導入についても検討していますので、ご協力の依頼がありましたら、宜しくお引き受け願います。

議会だよりの編集会議

委員 高橋 力雄

議会を傍聴しませんか。

## 8月定例会の予定

会期

8月2日(金)～8月30日(金)

### 本会議の日程 (午前10時開会)

2日(金)	提案理由の説明
13日(火)	質疑・自由討議
28日(水)	討論・表決・一般質問
29日(木)	一般質問
30日(金)	最終日

●決算審査特別委員会は  
8月13日・19日・20日・27日に開催

※日程は変更になる場合があります。

※ライブ配信も行います。

請願・陳情の提出は

7月26日(金)まで

ライブ・録画配信をやっています

<http://www.kakuda-city.stream.jfit.co.jp>

インターネットを利用したパソコン・スマートフォン・タブレット端末及び市役所東庁舎1階の市民ホールのテレビでもライブ中継がご覧になれます。

また、インターネットによる録画中継の配信も行っております。



第397回(令和元年6月)定例会

傍聴者数 13人

インターネットライブ中継視聴者数 延べ125人

インターネット録画中継視聴者数

4月～6月

延べ212人